

認定NPO法人 北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会

(振込先:郵便局 02790-6-9847 北海道自由が丘学園をつくる会)

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条15丁目5-11 TEL(011)858-1711 FAX(011)858-1333

URL <http://www.hokjioka.net>

E-mail : codmokan@agate.plala.or.jp

支援会員・寄金 3,000円 (年額)
*会員には、本通信を配布します。



＜「登山」 to 藻岩山＞

秋の日、(春の円山に続き)
小3～中3年生までが揃って
チャレンジしました。森林の
生き物に触れながら頂上で
昼食。其々達成感アゲス

■■ INDEX ■■

P1: 巻頭言
P2: ヒューマン trusts / 諸活動
p3: ↓ 年次会費納入、他
p4-5: 環境レポート
p6-7: 2 学期の進行
p8: エッセー、カレンダー、後記
[チラシ、案内他]

「不登校生徒急増：全国 20 万、道内 9 千人(前年+1,500 人)」

～彼(女)らの学習権、成長を支援するために～ 代表理事 吉野 正敏

10 月、文科省発表の標記データは、小学生 6.3 万人・中学生 13.3 万人(前年+1.5 万)と最多数値となりました。北海道でも、小学生 2,696・中学生 6,177・計約 9 千人と最大規模です(札幌は約半数)。

少子化時代に、学校ではカウンセラー配置や個別ケアなど様々な施策を取り続けているにも関わらず、対症療法的では「止められない」ということを、数十年間に皮肉にも「証明」しているのです。

そして、子ども達の多くが在宅状態にあります。学校/支援教室や民間/フリースクールには不登校児童の 2 割前後しか通えていません。そこには経済的事情「通わせたいが、義務教育なのに授業料が大変。近場になく交通費もかかる」という厳しい状況があります。この数年のコロナ禍の影響もありますが、日本社会ではこの現実=子ども達の学習権/基本的人権の保障に対して、当事者である学校(特に管理者)・教育委員会が社会的・公的責任を果たしていないことを指摘せざるをえません。

他方、いじめの深刻さも続いており、旭川の不幸な出来事を含めて、学校/教育委員会サイドの姿勢/問題意識のズレ・閉鎖的・待ったなしなのに後手を引く事例は全国的です。(北政等では生徒が委員となり、早期発見・共有・教師連携による食止めの成果あり。敷衍して、クラス定員削減/教師数増員も重要)

子ども達が一番多くの時間を過ごす=生活する場で「命」が守られない事態は、教育関係者が何よりも優先して取り組まねばならない課題でしょう。更に、ユネスコが指摘する「子ども達に過当な競争を強いる」学校～政権党による教育政策も放置のままであり、格差・分断/貧困は加重しています。

私たちが掲げる理念「子ども達が主人公=学び成長する主体」「自由と協同の人間形成的教育」を、これらの課題を打開する道=【もう一つの学び舎・学校】としてより広く高く発信せねばと思います。

「自由が丘」実践 23 年の蓄積と【市民立】の旗を今こそ本番とするべく、皆さんと連携して進めていく決意を新たにしています。 注:不登校は 30 日以上欠席する者で病気等は除くと定義。関連情報 3 ページ参照